



**UNITED NATIONS
UNIVERSITY**

2007年11月2日
MR/J47/07

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京都渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: http://www.unu.edu/

ワーキングセミナーおよび公開シンポジウム 「文化多様性への新しい賭け～対話を通して通低の価値を探る～」

- 内容** : 文化の多様性とその中核をなす対話についての討議
日時 : 2007年11月7日(水)～8日(木)
場所 : UNハウス(渋谷区)
共催 : 国連教育科学文化機関(UNESCO)、国連大学(UNU)、財団法人モラロジー研究所
 道徳科学研究センター、京都フォーラム
後援 : 外務省、文化庁、日本ユネスコ国内委員会

背景 : パリのユネスコ本部で行われた「文化の多様性と通低の価値～聖俗の拮抗をめぐる東西対話～」という国際シンポジウムでは、「文明の衝突」について、「文明が衝突するのではなく、文明に対する無知が衝突するのだ」という認識が得られた。この対話を更に深める必要から、第2弾となる今回の国際シンポジウムが企画された。本シンポジウムには世界各国から約25人の学者、研究者が参加し、11月5日から8日まで、京都と東京で行われる。11月8日(木)には、東京のUNハウス、ウ・タント国際会議場にて、公開シンポジウムが開催される。(午後2時から午後5時30分)

当シンポジウムでは、二つの挑戦に対する答えを追求する。

- (1) どのようにすれば異なる文化的背景を持った個人やグループが、同じ空間の中で調和を持って共存できるか。
- (2) どのようにすれば人類の過去に見られるような、様々な有形・無形の文化によって育まれる創造の能力を護ることができるか。

この二重の課題への答えは文化の多様性自体が秘めている。文化は多様性の源であり、同時に統一の源である。文化間の対話を通じて、文化は他の文化と深遠なる部分でのつながりを見出す。それは人類すべてに共有されるものである。

参加者 : 公開シンポジウムの参加者は以下のとおり。
 ハンス・ファン・ヒンケル(前国連大学学長)、金泰昌(公共哲学共働研究所長)、山脇直司(東京大学教授)、マイケル・パレンシア＝ロス(イリノイ大学名誉教授)、馮俊(中国人民大学副学長)、ジョン・ミラー(トロント大学教授)、森本公誠(東大寺長老)、高島肇久(国連大学学長特別顧問)、伊東俊太郎(東京大学名誉教授)、川勝平太(静岡文化芸術大学学長)、プーバン・シャンデル(インド哲学学会副会長)、杜維明(ハーバード大学名誉教授)、板垣雄三(東京大学名誉教授)、服部英二(道徳科学研究センター研究主幹)

プログラムは、右記URLにてご覧頂けます。http://unu.edu/events/index.html#diversity_200711

本ワーキングセミナーおよびシンポジウムは日本語、英語、仏語の同時通訳で行われます。

取材をご希望される方は、お手数ですが、下記担当者までお知らせください。
 国連大学広報部、担当：谷野(ヤノ)(電話：03-5467-1311；メール：media@unu.edu)